令和元年度　　学校だより
令和２年１月31日

さつきが丘 ２月号 第３２３号

まなびあい　みとめあい　ともにのびよう　さつきっ子

日本のもの作りと子どもの学び

副校長　　青木　直美

先日、５年生と社会科見学に行ってきました。トヨタ自動車とヤクルトの工場見学でした。印象的だったことはどちらの工場も働いている人が少なかったことです。トヨタ自動車では大型の機械が並び、アームロボットが左右に動きながら型押しをして車体のフレームを作っていました。ヤクルトでは高速で機械が回転し、あっという間にパック詰め、箱詰めされ出荷できる状態に梱包されていきました。なんと１秒間に６～7本商品を充填できるそうです。様々な工程を機械がこなし正確に製品を作っていく様子に圧倒されます。工場生産ってすごいな、と工業技術に感じ入ってしまいました。もの作りの中心が機械・ロボットに移っている現在、さらにＡＩ技術がこのロボットに導入されるようになると、人の働き方はどのようになっていくのだろうと考えさせられました。工場の工程で人が活躍しているのは、自動車では作られた部品の不備のチェック、１台１台ごとに違う部品の設置作業や完成した自動車の性能確認です。ヤクルトではタンクや製品充填機械の清掃作業などで、しっかり目で汚れを確認し、部品一つ一つを分解して洗浄するという作業を毎日３時間くらいかけて行っているとのことでした。これからますます人の働き方は変わっていくのだろうなということを実感しました。

今後、私たちの生活と緊密に関わりをもってくるであろうＡＩ技術ですが、実はこのＡＩにも、とても苦手なほとんど理解不可能だろうという分野があるそうです。その一つが「イメージ同定」だそうです※。これは文と図表などの非言語情報を正しく対応づける力です。地図やグラフを見て、その地図やグラフを説明している文を正しく選んだり、地図やグラフを見てそれを正しく説明する文を作ったりする力です。このような読む力、書く力を身に付けることはこれからの時代に重要な国語力の一つでしょう。ＡＩには決して超えられない分野については、しっかり身に付けてこれからの社会に備えていきたいと思いました。

※新井紀子著：「ＡＩに負けない子どもを育てる」より